



こんにちは

日本共産党 坂本みえこ です

9月号

日本共産党
世田谷区議会議員

坂本みえこ事務所●世田谷区太子堂4-5-2 TEL 03-3419-7721 FAX 03-3419-7673

災害時の在宅避難どうなる？ ―重症心身障害者（児）家族の思い

毎年、夏の時期に来年度予算への要望を様々な団体にお聞きしています。ご要望を区議会に届け、予算に反映できるよう頑張ります。（その2）

世田谷区では、災害が発生したときにケガがなく、住居にも危険な損傷がなければ、多少不便であっても、自宅で避難生活を送ることを基本としています。学校体育館などの避難所だけでは、とても世田谷区民は入りきれません。

重症心身障害者（児）を守る会の方にお話を伺いました。「福祉避難所があることはわかってはいるが、医療機器、おむつ、薬など大量の荷物もあり、そもそも道路の状態によって、車いすが通行できるかもわからない。」「バリアフリーの問題や、（障害者の方が）パニックになっってしまうことを考えると、在宅ですぐの方が良いと考えるが、支援物資をどうしたら分けてもらえるのか、親一人一人の場合、障害者一人残して取りに行くこともできない。」「備蓄もしているが、

足りなくなったりとき、どうすればいいのかわ。」「水もコップでは飲めない、とろみ材が必要、ストローが使えない、ミキサー食、ペースト状のものしか食べられない、など食糧だけでも、

それぞれの方にあつた支援が必要です。

支援が必要な方を、地域がどう支えていくことができるのかも大きな課題です。



低所得者にエアコン設置補助を

今年も猛暑が続いています。しかし、電気代の高騰でエアコンの使用を控える人も。

命を守るためにも、エアコンの適切な使用が必要です。エアコンがない方はこちらも、壊れて買い替えが必要な場合にも、低所得者への支援、電気代の補助をしてほしい、と生活と健康を守る会の方

からの強い要望です。他の自治体では助成制度のあるところもあります。

70歳代の独居の女性「エアコンの買い替えが必要だけれども我慢している」とおっしゃっているそうです。しかたなく社会福祉協議会の融資制度を利用して、ほかの支出を減らして、月々返済しているかたも多いのです。「地球沸騰化」ともいわれる中、命を守る仕組みを確立させましょう。

また、世田谷区内にある「お休み処」は施設によって休日もあり、薬局や診療所は、冷水などの補給ができますが、患者でもないのに入りにくい、という声もありました。改善していきましょう。



定員割れでも定額の運営費補助を

保育園の待機児が解消される中で、4月の段階で0歳児の定員に余裕が出てきました。空きがあれば途中で入園でき、保護者も安心です。子どもは4月入園に合わせて生まれるわけではないので、年度途中でも入れるのが本来の姿。半年も

すれば定員は埋まるそうですが、私立保育園では4月当初から保育士さんを確保しておかなければならないのに、保育料が入ってこないのでは、運営が不安定になってしまいます。「定員定額制」で安定的な運営ができるようにしていきたいでしょう。

共生社会の実現に向けて

重度知的障害者の「手をつなぐ親の会」からは、グループホームの増設や、緊急時に専門サポーターがバックアップしてくれる体制の強化、深刻なグループホームや通所施設での人員不足解消のための人件費補助等の要望が出されました。

また世田谷区では今年から「世田谷区障害者理解の促進と地域共生社会の実現をめざす条例」が施行されましたが、学校での学ぶ機会に目隠しによる視覚障害の体験や、車い



すの体験はあっても、知的障害がなかなか取り上げられておらず、知的障がいへの理解を広げてほしいというお話でした。

手をつなぐ親の会では、聞こえ方や見え方、感覚の鈍さによる「困り感」の疑似体験などキャラバン隊を作って啓発活動に取り組んでおられます。

大人になってからも障害について学ぶ機会が必要です。

「災害と平和」

世田谷区立平和資料館で企画展

今年には関東大震災から100年。

世田谷区は、世田谷公園内の区立平和資料館において「災害と平和」と題した企画展を行なっています。（9月30日まで）

関東大震災は、首都圏に死者10万人、住居消失者2000万人を超える日本の地震災害史上最大の被害をもたらしたと言われています。

そして人々の中で流言（デマ、根拠のないうわさ）が広がり、

世田谷区でも、太子堂・烏山で朝鮮人が殺傷される事件が発生しました。

災害の直後に、普段からの理解・配慮の足りなさや、偏見・差別的意識が明らかになり、増幅しやすくなるという痛ましい事例は、その後の災害にも見られます。

小池百合子都知事は「関東大震災朝鮮人虐殺追悼式典」への追悼文送付を、歴代知事が送ってきたにもかかわらず、今年も拒否しました。世田谷区との違いがくつきりと表れたのではないのでしょうか。

「災害と平和」について考えてみましょう。

どうぞ足を運んで常設展も見てください。平和資料館をより良いものにしていきましょう。

せむがや中企業の平和館
世田谷区立平和資料館

関東大震災100年から考える
災害と平和

2023.9.1 (金) ▶ 9.30 (土)

今年から100年前の9月1日に発生した関東大震災は、犠牲者15万人、住居消失者200万人を超える日本の地震災害史上最大の被害をもたらしたと言われています。
*上記はあくまで推定（人口、被害のないうわさ）が広がり避難入等が数倍ある事象も発生しました。
100 年前の社会状況や情報源、伝達の手段も今と違いはありますが、災害の犠牲者に、被害からの避難・救助の遅いことや、差別・差別意識が明らかになり、増幅しやすくなるという痛ましい事例は、その後の災害にも見られます。
関東大震災から近年までの災害の経験も多岐に、防災時だからこそ考えられる「平和」について考えてみましょう。

災害と平和って関係ある？
災害時のデマにどう対処する？
多機性に配慮した防災拠点とは？

会場：世田谷区立平和資料館 多目的室
観覧時間：9時～17時（入館は16時45分まで）
休館日：休館日曜日
入場：参加費：無料
主催：問合せ：世田谷区立平和資料館
TEL: 03-3414-1530